

平成 30 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 豊延会	代表者	川島 攻	法人・事業所の 特徴	利用者一人ひとりの人権を尊重し、住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、地域住民との交流や地域活動への参加を図ります。利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、通いサービス、訪問サービス及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせることにより、地域での暮らしを支援します。
事業所名	小規模多機能ハウス あさひ	管理者	津久井 洋和		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	0 人	4 人	2 人	2 人	0 人	0 人	3 人	0 人	12 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>・一つの取り組むに対して、肯定的に受け取るスタッフもいれば否定的に受け取るスタッフもいる。</p> <p>それぞれ個々の意見として尊重すると共に、毎日のミーティングや毎月の全体会議等で意見を引き出し、共通認識を図る。</p>	<p>・全職員が取り組んだ事業所自己評価だが、同じ項目でも「よくできている」と答える職員もいれば、「あまりできていない」と答える職員もいる。これは職員個々の認識の違いであり、職員が自分自身を主観的に振り返ったと思われるところもある。</p> <p>職員個々の捉え方や習熟度の違いから、違った意見が見られるのは前回同様である。</p>	<p>委員ご意見 「事業所自己評価」に記されているメンバー（職員）について、全職員が対象ではないのか？</p> <p>施設回答 事業所自己評価は全職員に配布し、全職員から回答を得ている。その回答をまとめたものをミーティングや全体会議で話し合い結論を出した。全職員で議論できれば良いが、4 交代で勤務しているため、全員の参加が難しい状況である。</p>	<p>・事業所自己評価は全職員から提出され、その内容についてミーティングや全体会議で話し合った。</p> <p>事業所自己評価は職員個々の意見が出されたが、実際の話し合いでは、積極的に発言する職員がいる一方、意見があっても言えない職員もいた。</p> <p>他者の前では意見が言いにくい職員も、それぞれに考えを持っているため、個々に意見を聞き取るなど全職員の意見が反映できるようにする。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>・鍵を掛けない介護を引き続き提供する。</p> <p>落ち着かないご利用者には職員が付き添ってお話をするなどの気分転換を図る。また好きなことや興味のあるものをご利用者と一緒に考える。</p>	<p>・帰宅願望等で自ら外に出てしまう方のご利用がなかったため、日中鍵を掛けることはなかった。</p> <p>家族には出入りしやすい施設であると感じて頂けるよう、来訪時は職員から元気に挨拶したり、積極的に近況報告を行っている。しかし地域の方が気軽に立ち寄ることはない。</p>	<p>・不快な音や臭いは感じず、きれいにしていると思う。</p> <p>・落ち着かない利用者がある時に、鍵を掛けないで対応するのは難しいこともあると思う。</p>	<p>・ご利用開始時に、面会は 8:00～20:00 の間であればいつでも可能であることを説明し、気軽に立ち寄れる施設であることを周知する。</p> <p>・月ごとに行事担当職員をつけ、季節を感じて頂けるような飾り付けを行う。</p>

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意 見	今回の改善計画
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議委員やこれまで交流のある組織からの情報提供を受け、積極的に地域行事やイベントに参加する。 ・平成30年度から同じ敷地の特養あさひで「こども食堂」を開催し、地域交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで交流のある児童館や幼稚園、町の催事などのお誘いがあった。地域の子供たちと交流したり、地域の催事・見学会などに積極的に参加できた。 ・「こども食堂」 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にて、地域の防災訓練やお祭り、交流会等の参加状況について報告・説明する。運営推進会議を通じて地域行事の情報交換をしたい。 ・地域の特色として、新しく引越してきた家庭が多く、地域の会議や催事等の集まりが良くない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議委員やこれまで交流のある組織、地元の職員からも情報提供を受け、積極的に地域行事やイベントに参加する。 ・また参加時の職員配置が課題であるが、できるだけ当日の職員配置を厚くし、一人でも多くの利用者が参加できるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、運営推進会議や町から地域情報を得て、職員や利用者が積極的に地域と関わる機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館交流会や菖蒲祭まつり、七夕会、夏祭り見学、菊見学、保健福祉祭り、など、地域行事へ参加した。また、散歩やドライブ外出、初詣など地域に出掛ける機会が多くなるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所や知り合いなどで介護に困っている場合の多くは、大泉町社会福祉協議会・包括支援センターか町役場に相談に行くことが多いと思う。 ・小規模多機能ハウスあさひが認知症相談窓口であることを知ったので、介護等で困っている方がいたら紹介しようと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、大泉町でまちづくり会議が開催されている。小規模多機能ハウスあさひは、地域密着型サービス施設として何ができるか、まちづくり会議に参加し、検討に加わる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議への出席が少ない方(機関)へ声かけし、出席の協力を仰ぐ。 ・管理者以外の職員も運営推進会議に参加できるよう、勤務調整する。 ・引き続き、地域の心配な方や福祉関連の課題を取り上げ、必要な方は支援に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町役場職員がほぼ毎回参加されるようになった。結果、委員(地域住民)と町役場職員、施設職員とで地域課題がより話し合われるようになった。 ・管理者以外の職員参加については、当日の勤務状況や活動支援に必要な職員の確保により、参加させることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では、月ごとの利用状況、活動状況、研修や行事等の報告を受けている。 ・地域との交流を深めていきたいという施設の考えが伺える。 ・施設としては、地域情報の交換の場として幅広い意見を伺いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者以外の職員も運営推進会議に参加できるよう、勤務調整する。 ・地域の心配な方や福祉関連の課題を取り上げる。必要な方は家族や関係機関と連携し、支援に繋げる。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は施設関係者のみでなく、地域住民も参加できるよう計画を立て、災害時の協力体制を築く。 ・年度初めに事業所の防災計画を運営推進会議で説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画は立てたが、防災訓練は施設職員のみ参加となってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は施設関係者のみでなく、地域住民も参加できるよう計画を立て、災害時の協力体制を築く。